

まごころこめて磨き合う なまづっこ



「なかまと まごころこめて すすんで やりぬく子」
～学び磨き・こころ磨き・健康磨き～

2023.10.31 発行

褒め上手「そのコツとは？」

前期終業式の校長先生の話の一節です。

「学級で決めたためあてをみんなで達成させよう」と取り組めた前期でした。(略) 昨年度前期までのやりぬき賞の合計は444枚。さて、今年度前期までの枚数はどれくらいだったでしょう。昨年度より多いでしょうか。少ないでしょうか。なんと、今年度前期までのやりぬき賞の合計は687枚です。自分で意識をしたり呼びかけをしたりして取り組んだ成果です。」

子どもたちから大きな歓声をあげました。そして、取組の過程やその値打ちを聞く子どもたちの顔は誇らしげでした。

ご家庭でもお子さんを褒めることはたくさんあると思います。特にお子さんが小さかった頃は、どんなことにも「すごい！すごい！」と褒める連続だったことでしょう。

では、ものごころついた子どもたちへの効果的な褒め方はどのようにすると良いのでしょうか。コロンビア大学の心理学者C. ミューラー教授とC. デュエック教授は褒め方の実験をし、下記のような興味深い結果が出たとありました。

- ① 子どもたちを無作為にA・B・Cの3つのグループに分ける。
- ② A・B・Cのすべてのグループに簡単な図形のテストを解かせる。
- ③ Aグループには「頭がいいね」と褒める。
Bグループには、何も言わないでおく。
Cグループには「頑張って解いたね」と褒める。
- ④ 次にA・B・Cグループの子どもたちに【難しいけれどやりがいのある問題】か【1回目と同じくらい簡単な問題】か、どちらの問題を行うかを選ばせる。
- ⑤ 【難しいけれどやりがいのある問題】にチャレンジした子どもの割合は、
Aグループは35パーセント（「頭がいいね」とほめたグループ）
Bグループは55パーセント（何も言わなかったグループ）
Cグループは90パーセント（「頑張って解いたね」と褒めたグループ）

この実験からCグループの「頑張って解いたね」とプロセスや努力を褒めた子どもたちは、努力をすれば褒められ、新たな挑戦して問題を解こうとしていきます。Aグループの子どもたちは「頭がいいね」と褒めてもらえるように、解けない可能性がある難しい問題を避ける傾向になり、成績が低下してしまったという結果がでたそうです。

褒められることは、子どもたちにとって、とても嬉しいことです。しかし、褒め方には何か『コツ』があるようです。生津小学校も子どもたちの頑張りを褒めて、認めて、たくましく育てていきたいです。



朝の登校



ボランティア活動



「まごころいっぱい」生津の子

「おはようございます。」元気な挨拶をしながら登校する班が多くなってきました。また、班員は前の人との間隔をとりながら一列に歩いたり、班長さん、副班長さんは班旗を上手く使って横断歩道で安全に渡らせていたりしています。大きい学年の子が小さい学年の子を思いやり、小さい学年の子は大きい学年の子を敬える、いろいろな学年の子が一緒になって支え合える豊かな心が育ってきています。

左の写真は、昼休みのボランティア活動の様子です。児童玄関の掲示板は夏から秋へと模様がえです。ボランティアで集まってきてくれた皆さんはALTのイン先生と一緒に、赤・茶・黄などの画用紙で葉を作り、飾りました。生津小学校も紅葉狩りができます。